

## 米軍機の事故について

三三三二二

社会民主党の東門です。

きょうは米軍機の事故についてお伺いしたいと思います。

ことし四月、沖縄でF15戦闘機の照明弾落下事故、燃料漏れ事故、風防ガラスの落下事故など、米軍機による事故が立て続けに発生し、本委員会でも何度が質問いたしました。そのたびに政府は原因究明と再発防止を申し入れると答弁をしましたが、事態は改善されるところがますますひどい状況となっております。

七月三十一日と八月一日、二日続けて嘉手納基地でF15が火災事故を起こし、八月二日にはキャンプ・シュワブでヘリコプターがエンジントラブルを起こし、施設内の海岸に不時着、八月七日には嘉手納基地でヘリが緊急着陸、九日にもFA18、C130輸送機、F15が相次いで緊急着陸、八月二十一日には沖縄本島沖百キロの海上にF15が墜落しました。

その後も連日のように米軍機の緊急着陸が行われており、報道されただけでも九月は十回以上もあります。今月も、十二日に石垣空港にヘリ二機が緊急着陸、嘉手納基地でもF15が、十六日には一機、二十一日には三機、二十三日には二機、緊急着陸し、二十五日には米軍輸送機から水タンク三個が落下する事故も発生しています。

わずか三カ月足らずの間にこれほど多くの事故が発生しているのです。もはや再発防止などという言葉は何の意味も持ちません。米

軍の言うことは何も信じられない。このようなことを繰り返し続けていて、よき隣人でありたいという言葉はうつろにしか聞こえませんが。

幸いにして、現時点では人的被害は出ていませんが、何度も申し上げているように、そうなるからでは遅いのです。国民の身体、安全を守るため、政府は最善を尽くす義務があります。政府は現在の状況をどのように認識しておられるのか、また、住民の安全を確保するため、どのような方策をとっていかれるのか、まず大臣の見解を伺いたいと思います。

川口国務大臣 今委員が、ことしになって起こったさまざまな事故について述べられました。これを挙げられましたけれども、ここに出てくるように、ことしになってかなり事故が起こっているということについては、私も非常に遺憾であると思います。県民の方がこうした事故が立て続けにあるということについて不安な気持ちをお持ちになられるということは、私としても認識をきちんといたしております。

政府として、今までこういったことについて遺憾の意を表明しまして、再発防止そして事故の原因究明ということについて申し入れをしてきたということは、委員がおっしゃったとおりでございます。アメリカ側からは、この事故について、再発防止には真剣に取り組んでいるという説明を聞いております。今後とも、こういうことに對しましては、アメリカ軍に対する申し入れも含めまして、その案件ごとに、それにふさわしい適切な対応を政府としてとっていき

いと考えております。

東門委員 その事故ごとにアメリカに再発防止、原因究明を強く申し入れて、そして、アメリカ側からもそのように努力するという返事を受けているということなんですが、しかし、それはちつとも変わりませんよね。むしろふえているということを私は申し上げたいのですよ。申し入れる、米側が、そのように努めます、これではないのでしょうか。住民に対し、本当に安全なんですよ、もう大丈夫ですよというその行動は何もない。

先ほど、言葉ではなくて行動ですよ、別の委員の質問に答えておられました、そのとおりなんです。申し入れました、アメリカからはこのように返事がありました、ああ、そうですね、このままでの外務省だったと思うんです。それに対して、本当に、沖縄側の、沖縄の住民の不安、それをどのように取り除くのですか、というのは全然見えません。

これだけの事故がふえているという状況をどのように認識しておられるか。ふえています、それだけじゃないと思います。では、どのような方で沖縄の住民の不安を取り除いていかれますか。もう一度お聞かせください。

川口国務大臣 私としても、こういったことについての県民の懸念あるいは不安を一挙に取り除くような妙策が本当にあればと思いますけれども、これはやはり、アメリカ軍側がきちんとそれぞれのことに對して対応をするように、再発が起こらない、あるいはそのために事故の原因がはっきりわかるといった、そのステップをきち

んと踏んで対応していく、粘り強い取り組みをやっていくということが大事であると私は考えております。政府として、こちら、そのための粘り強い対応をしていきたいと考えています。

東門委員 米国側は、先ほど私が申し上げました一連の緊急着陸について、予防着陸であるとして、米軍の準機関紙ともいうべきスターズ・アンド・ストライプスは、九月一日付の記事で、沖縄で緊急着陸と言っているのは予防着陸で、米軍にとっては普通の出来事であり、予防着陸が深刻な事態を防いでいるのであって、それを沖縄の報道機関が訓練への懸念をあり、県民の不安を助長させているとの趣旨の記事を掲載し、あたかも沖縄の報道が悪いような見解を示していますが、とんでもない話です。緊急着陸と予防着陸の違いなど単なる言葉の遊びであり、現に機体に何らかの異常があったからこそ、米軍の言う予防着陸を行ったのです。

このようなふぐあいを抱えた機体が頭上を飛び交っていることに對し、県民が不安に感じるのは当然のことです。八月には実際に火災事故や墜落事故が発生しています。たまたま基地の中あるいは海上で発生したから大事には至りませんでした、市街地の真上でこのようなことが起こった場合のことを考えると、ぞつとします。

県民の立場としては、予防着陸だろうが緊急着陸だろうが、そのような事態は一切ないように、万全の状態を飛行機を飛ばしてもらいたいという以外ないのであり、それが保証されないのならば、整備が万全になるまで飛行を中止してもらおうしかありません。その件に関して、政府の見解を伺いたいと思います。

海老原政府参考人 お答え申し上げます。

今、東門委員のほうから、緊急着陸、予防着陸の話がございました。これは、私の理解しているところでは、確かに米側のいわばカテゴリー分けということであろうと思ひまして、いずれの場合であっても、地元の方々に必要な不安を与えることのないようにということとは当然でございますし、また、米軍の訓練、このこと自体は必要なことだろうと思ひますけれども、その訓練に当たりまして安全性の確保に万全を期すということ、これはもう当然のことでございます。先ほど大臣からお話がありましたように、従来からいろいろなレベルで申し入れを行っておるところでございますけれども、今後とも、しかるべく米側に申し入れを行って、安全について万全が期されるよう、政府としても全力を挙げていきたいというふうに考えております。

東門委員 私が申し上げたいのは、本当に安全であるということ保証されないのならば、整備がちゃんと万全になるまで飛行中止、それを申し入れてもらいたい、それをアメリカ側に要求してもらいたいということなんです。そのことに対して政府の見解を。今までどうしてきましたかということじゃないんです。

とにかく、住民、県民が不安を感じる。本当に、ちょっと間違えばひどい状態になるのは皆さんよく御存じだと思います。そのままほっておいて、もし何か起こったということを考えたことがございますか。そういう飛行機、いわゆる欠陥のあるふくあいな、そう

いうものを抱えた機体が頭上を飛び交っているなんということが許されるでしょうか。それに対して、整備をちゃんとするまで、安全が確保され保証されるまでとめてください、飛行は中止していただきたいということを申し入れてほしい、いや、強く要求してほしいと思ひますが、もう一度お願いいたします。

海老原政府参考人 事故等が起きたときに、その安全策につきまして、それがとられるまでその使用を中止すべきであるというお話であったと思ひますけれども、これは従来から、そのような事故が起こった場合に、安全性を確認するまで米側のほうにおきましてその訓練を中止する、しばらく差し控えるというようなことは、その都度、必要に応じて行われてきたというふうに考えております。

それを超えまして、訓練そのものをすべて中止することであれば、それは先ほど申し上げましたように、日米安保体制の円滑な運用ということで、日本の安全という観点からもこのような訓練は、もちろん安全に万全を期した上で、必要なものであるというふうに考えておりますので、御理解をいただきたいと思います。